

富山県感染症発生動向速報

(2025 年第 10 週分・3 月 3 日～3 月 9 日)

■今週の主な動向

○感染性胃腸炎の報告数が増加しました。

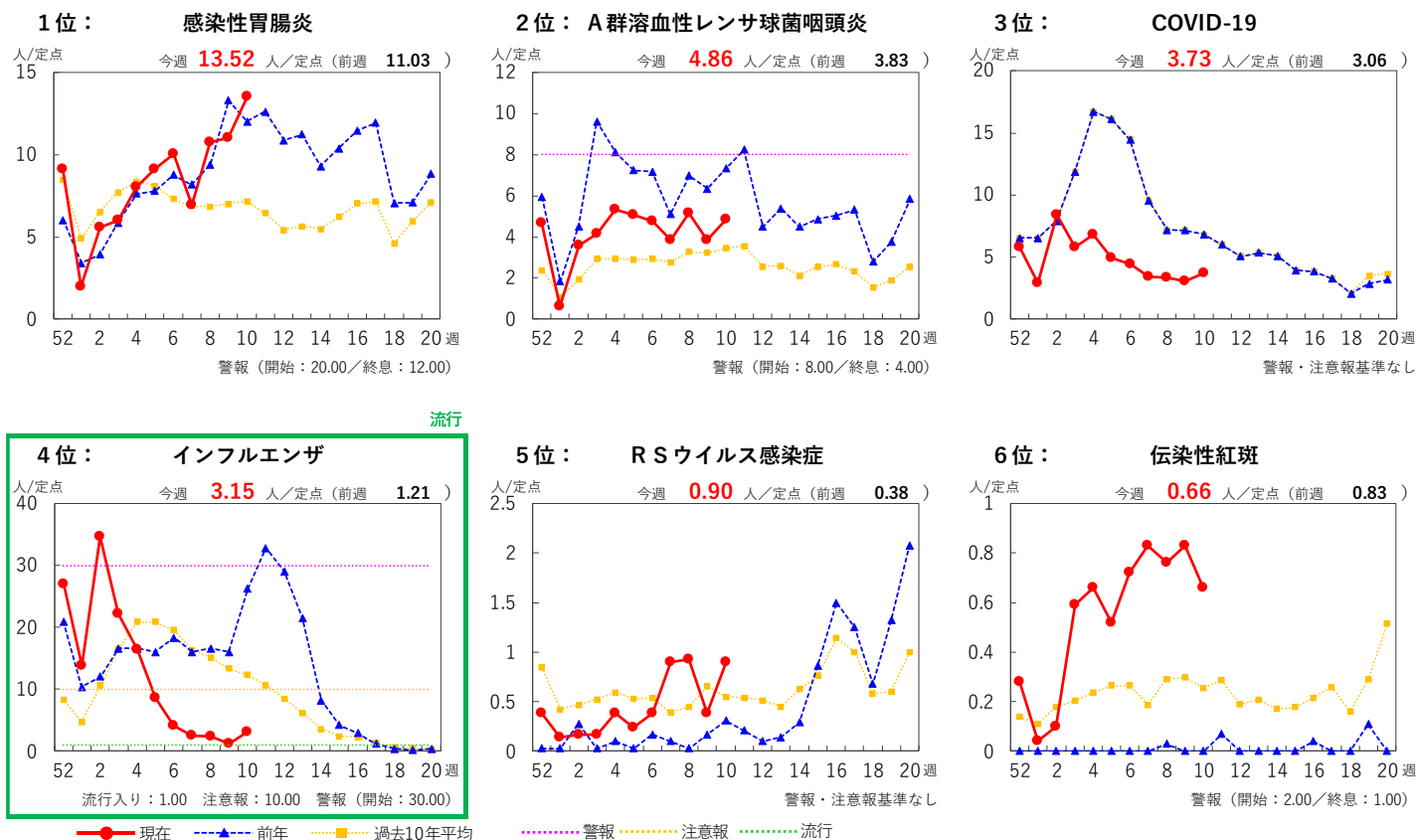
小児科定点での報告数は、3 週続けて増加しました。ノロウイルスによる胃腸炎や食中毒では、マスク、手袋、エプロンを着用し、床面に付着したおう吐物を、次亜塩素酸を染み込ませた布等で拭き取りましょう。処理前後には部屋を換気しましょう。なお、県内でノロウイルスによる食中毒が多く発生しており、富山県生活衛生課は [ノロウイルス食中毒警報を発令しています](#)。

○百日咳が今週 9 例（2025 年累積 17 例）報告されています（昨年の年間報告数：2 例）。

全国的にも 5～14 歳の小児を中心に報告数が増加しています。百日咳は、長引く咳が特徴です。咳が長引く場合は、早めに医療機関を受診しましょう（今週のインフォメーション参照）。

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位 6 疾患（第 10 週・3/3～3/9）



厚生センター（保健所）管内別、直近の推移：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#b1>

■全数報告の感染症

五類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1 件（80 歳代、男性）

侵襲性肺炎球菌感染症 1 件（80 歳代、男性）

百日咳 9 件（①10 歳未満、男性 ②10 歳未満、女性

③～⑤すべて 10 歳代、男性 ⑥～⑨すべて 10 歳代、女性）





2 週間以上続く咳 百日咳かも！

《 インフォメーション 》

● 百日咳

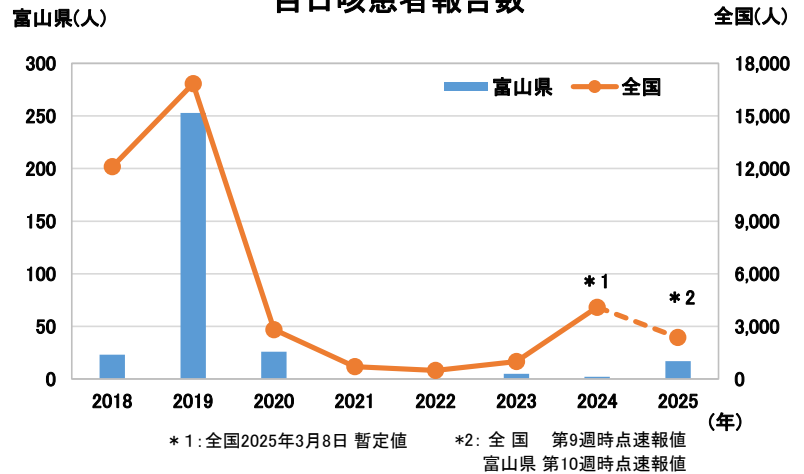
百日咳は、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症です。百日咳菌を原因菌とし、患者の咳などに含まれる菌を吸い込むことにより感染します。感染力が強く、学校保健安全法では第 2 種感染症に定められており、特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌薬療法が終了するまで出席停止とされています。近年、小学校高学年以上の患者が多くなっており、2018 年から、それまでの小児科定点把握疾患から成人を含む全数把握疾患に変わりました。

百日咳患者は、全国では 2018 年に 12,115 人、2019 年に 16,845 人が報告されましたが、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生した 2020 年以降、大幅に減少しました（上図折れ線グラフ）。一方、2024 年には 4,093 人に増加しました。富山県内では 2019 年に地域流行が確認され、253 人が報告されました（[磯部順子他. IASR 41: 125-127, 2020](#)）。その後、県内の報告数は 2020 年以降減少し、2024 年まで 0～26 人／年で推移していました（上図棒グラフ）。しかし、2025 年は、第 10 週時点で既に 17 人が報告されており、今後の動向を注視していく必要があります。

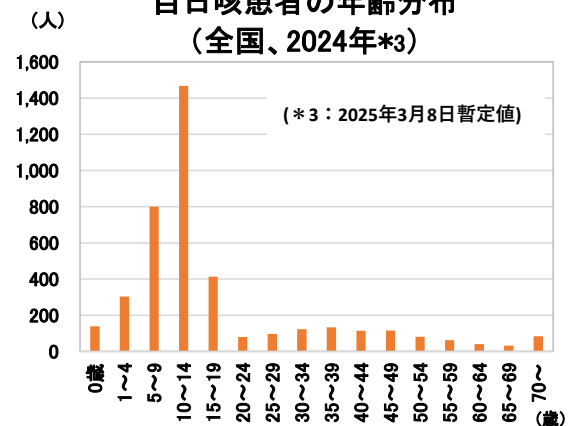
百日咳ワクチンは、乳幼児期の定期接種で計 4 回接種しますが、ワクチンの効果は 4～12 年で減弱するとされています。2024 年に全国で報告された年齢別の患者数は、10～14 歳が最も多く、次いで 5～9 歳が多くなっています（下図）。2021 年の疫学状況の報告では、5～15 歳では患者の 84%以上が 4 回の接種後に発症したブレークスルー感染であったと報告されています（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/pertussis-idwrs/11719-2021-1-52.html>）。このため、日本小児科学会は、就学前に百日咳ワクチンを含む三種混合ワクチンを追加接種（任意接種）することを推奨しています（[小学校入学前に接種すべきワクチン](#)）。

百日咳の感染拡大を防止するには、早期の診断、治療が重要です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。また、マスクを着用するなど、「咳エチケット」を守りましょう。

百日咳患者報告数



百日咳患者の年齢分布 （全国、2024 年*3）



○感染症発生動向調査報告状況（2025年第10週 2025年3月3日～2025年3月9日）

分類		疾患	今週報告分（第10週）						累積報告数（2025年第1週（2024年12月30日）～）					
			新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
全数把握	二類感染症	結核							1		4	3	12	20
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く							1	1	3	6	11	
	四類感染症	E型肝炎									2			2
		A型肝炎									1			1
		レジオネラ症									1			1
	五類感染症	アメーバ赤痢											1	1
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症					1	1			2		2	4
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症									1		3	4
		侵襲性インフルエンザ菌感染症									1	1	1	3
		侵襲性肺炎球菌感染症					1	1	4		2	3	6	15
		梅毒							1		2		5	8
		百日咳			2		7	9			5	1	11	17
定点把握（上段：報告数、下段：定点医療機関当たりの報告数）	インフルエンザ／COVID-19定点（48定点）	インフルエンザ	6	24	35	15	71	151	784	492	1,494	866	1,561	5,197
			0.86	4.80	2.69	2.14	4.44	3.15						
		COVID-19	42	22	47	30	38	179	496	241	585	406	512	2,240
			6.00	4.40	3.62	4.29	2.38	3.73						
	小児科定点（29定点）	RSウイルス感染症	1	1	6	9	9	26	10	3	57	9	54	133
			0.25	0.33	0.75	2.25	0.90	0.90						
		咽頭結膜熱	2		7			9	32	8	94	1	16	151
			0.50		0.88			0.31						
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	10	44	8	74	141	41	70	426	43	616	1,196
			1.25	3.33	5.50	2.00	7.40	4.86						
		感染性胃腸炎	49	42	91	15	195	392	263	234	385	171	1,349	2,402
			12.25	14.00	11.38	3.75	19.50	13.52						
		水痘					8	8	2	6	11	4	26	49
							0.80	0.28						
		手足口病			1			1		1	3	1	1	6
					0.13			0.03						
		伝染性紅斑		3	8		8	19	1	10	82	2	70	165
				1.00	1.00		0.80	0.66						
		突発性発しん			1	1	2	4		2	15	6	23	46
					0.13	0.25	0.20	0.14						
		ヘルパンギーナ	3					3	11					11
			0.75					0.10						
		流行性耳下腺炎								3	1	1	4	9
	眼科定点（7定点）	急性出血性結膜炎				2		2			4	11		15
						2.00		0.29						
		流行性角結膜炎									12	1		13
	基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎										1		1
		マイコプラズマ肺炎	2		1			3	7		13	12	2	34
			2.00		1.00			0.60						
		感染性胃腸炎（ロタウイルス）									2			2
	入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザ による入院患者（※1）							55	19	44	64	45	227
									48	46	39	89	110	332
		COVID-19 による入院患者	3	5	1	1	10	20						

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2024年第36週（9月2日）～の集計です。

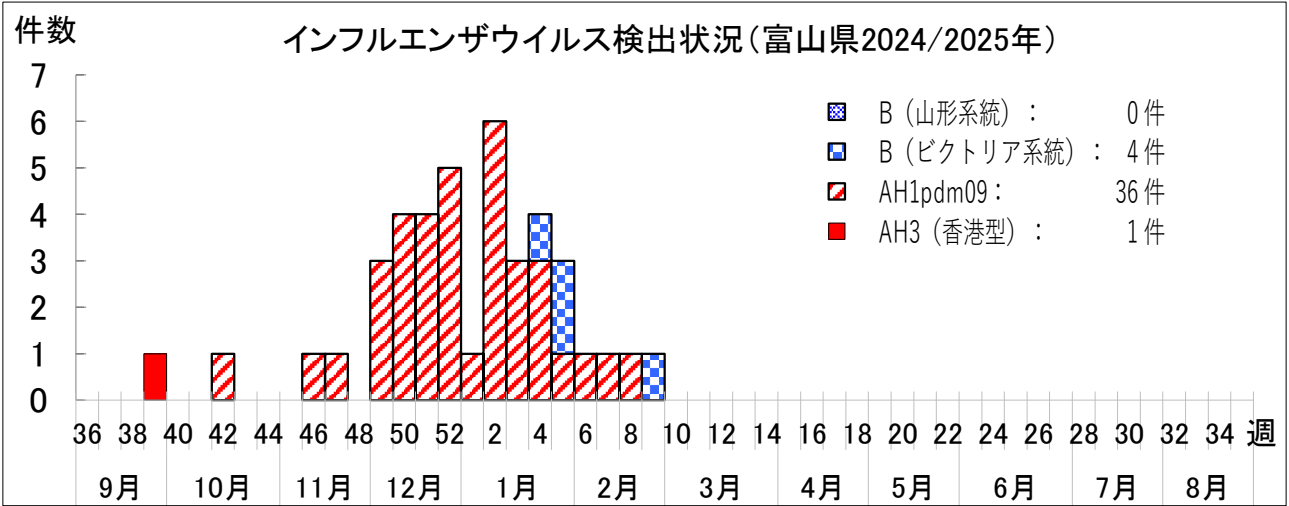
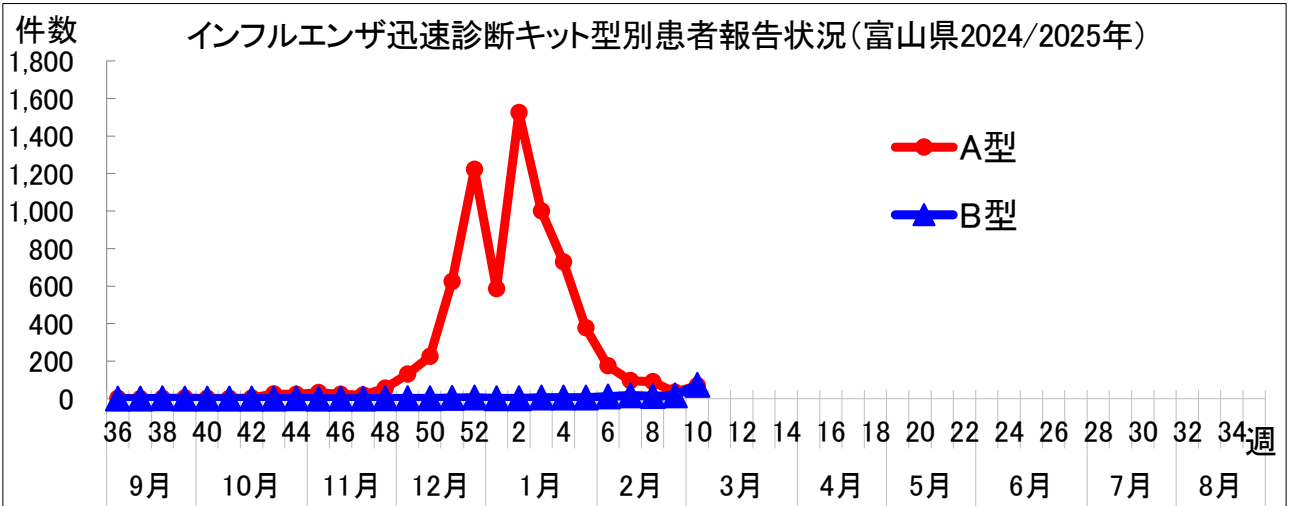
インフルエンザ定点における患者診断状況

このデータは、インフルエンザ定点医療機関で実施されたインフルエンザ迅速診断キットの診断数を集計したものです。
現在、下の表によると、A型が45.7%、B型が48.3%となっています。

第10週(3/3～3/9)：富山県 3.15人/定点 (単位:件)

厚生セン ター・ 保健所名	報告数/定点数	迅速診断キット		その他 ^{※2}	合計
		A型	B型		
新川	3 / 7	5	1	0	6
中部	4 / 5	10	10	4	24
高岡	8 / 13	24	9	2	35
砺波	5 / 7	2	12	1	15
富山市	12 / 16	28	41	2	71
富山県	32 / 48 ^{※1}	69	73	9	151
富山県累計(2024年36週～)		7,078	167	466	7,711

※1 48の定点医療機関のうち、インフルエンザと診断した医療機関が32か所あったことを示します。
※2 「その他」には、臨床症状等によりインフルエンザと診断したが型別までは不明な患者や迅速診断キットの結果がA型とB型共に陽性の患者が対象となります。



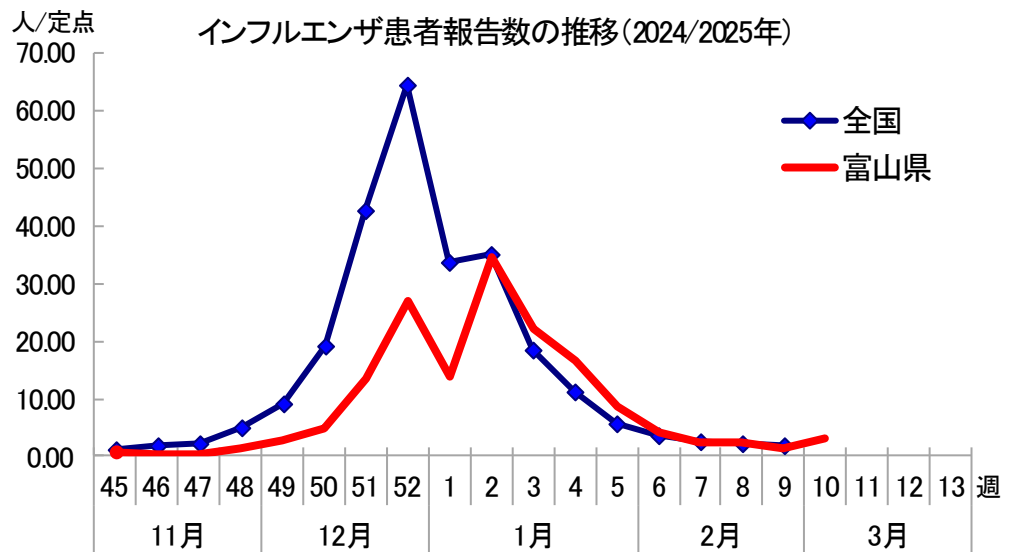


● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況

第 10 週 (3/3～3/9) : 富山県 3.15 人/定点

新川 HC (0.86)、中部 HC (4.80)、高岡 HC (2.69)、砺波 HC (2.14)、富山市 HC (4.44)

県内の患者報告数は、第 2 週をピークに減少していましたが、第 10 週（今週）に 3.15 人/定点となり、増加に転じました。

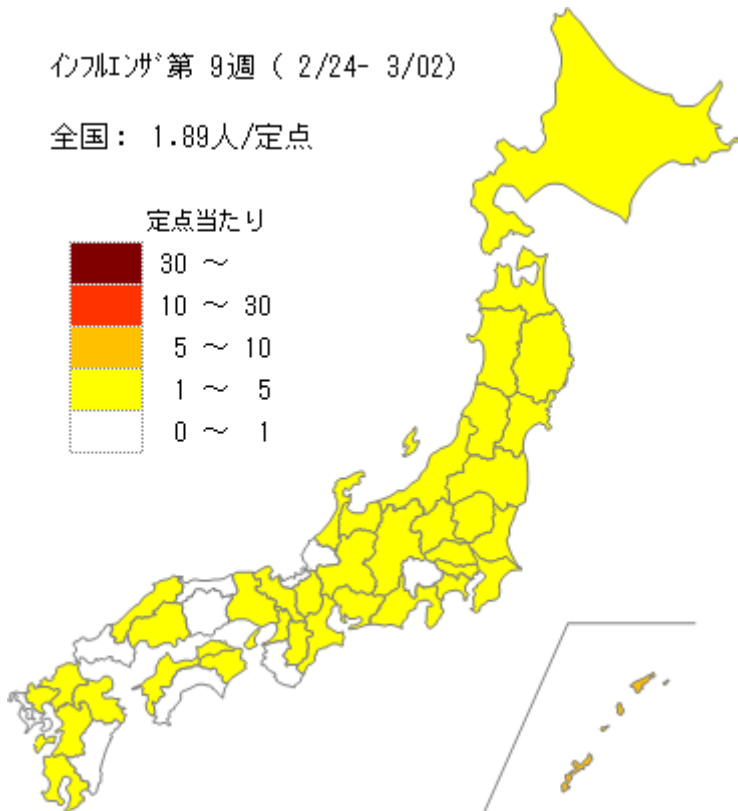


● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第 9 週 (2/24～3/2)

全国 of 患者報告数は、定点医療機関あたり 1.89 人となり、前週の 2.22 人より減少しました。9 府県で前週より増加しています。37 都道県で前週より減少しています。

インフル第 9 週 (2/24- 3/02)

全国: 1.89人/定点



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	3.28 ↓	滋賀県	1.48 ↑
青森県	1.76 ↓	京都府	1.78 ↑
岩手県	2.60 ↓	大阪府	1.75 →
宮城県	1.85 ↓	兵庫県	1.46 ↑
秋田県	1.44 ↓	奈良県	2.22 ↑
山形県	3.00 ↓	和歌山県	0.90 ↓
福島県	1.95 ↑	鳥取県	0.66 ↑
茨城県	1.48 ↓	島根県	2.05 ↓
栃木県	3.89 ↓	岡山県	0.96 ↓
群馬県	2.18 ↓	広島県	1.70 ↓
埼玉県	2.32 ↓	山口県	0.75 ↓
千葉県	2.62 ↓	徳島県	1.11 ↓
東京都	1.41 ↓	香川県	1.53 ↓
神奈川県	1.87 ↑	愛媛県	1.13 ↓
新潟県	4.06 ↓	高知県	0.50 ↓
富山県	1.21 ↓	福岡県	1.75 ↑
石川県	1.96 ↓	佐賀県	2.00 ↓
福井県	0.82 ↓	長崎県	0.93 ↓
山梨県	0.44 ↓	熊本県	1.44 ↑
長野県	2.47 ↓	大分県	1.48 ↓
岐阜県	1.00 ↓	宮崎県	0.86 ↓
静岡県	2.07 ↓	鹿児島県	1.22 ↓
愛知県	1.57 ↓	沖縄県	7.61 ↓
三重県	1.08 ↓	全国	1.89 ↓

○感染症発生動向調査報告状況（2025年2月分）

五類感染症 定点把握 月報対象疾患 (上段…報告数、下段…定点医療機関当たりの報告数)		2月報告分						累積報告数					
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
STD定点 (10定点)	性器クラミジア感染症			1		4	5			4		10	14
				0.33		1.00	0.50						
	性器ヘルペスウイルス感染症		1			1	2		2			12	14
			1.00			0.25	0.20						
	尖圭コンジローマ				1	2	3				2	2	4
					1.00	0.50	0.30						
	淋菌感染症					2	2					3	3
						0.50	0.20						
基幹定点 (5定点)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	2	2	2	8	1	2	4	4	10	21
			2.00	2.00	2.00	2.00	1.60						
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症					1	1	1				1	2
						1.00	0.20						

本月報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。